

『国境なき医師団』の活動

スーダン・ダルフール地方では、内戦により今なお100万人の避難民が飢餓の危機に直面している。



© Stefan Pleger



© Stefan Pleger



© Stefan Pleger

大規模災害、武力紛争、伝染病の流行など医師団の活動の場は多岐に渡る



© Hajime Sekinochi

「国境なき医師団」の医者、看護師、心理療法士、物資担当者たちは、居心地のいい母国を後にして、世界中の最も危険と言われている場所に赴いている。内戦と政情不安で国内の混乱が続くブルンジ共和国、伝染病の流行するウズベキスタン共和国…。世界各地で絶えることのない「国境なき医師団」の活動の場。その現実を知ったとき、私たちは何をすることができるだろうか。

国境なき医師団

国境なき医師団 (MSF) は営利を目的としない国際的な民間援助団体です。1971年にフランスで設立され、医療援助を専門に活動を行っています。年間約3,000人の医師、看護師、助産師らが世界約80ヵ国で援助活動を続けています。

<http://www.msf.or.jp/>

と き ■ 11月6日(土)13:30~15:30 (開場:13:00)

と ころ ■ 静岡英和学院大学教室W301

静岡市池田1769番地 TEL/054-261-9201(代)

主 催 ■ 静岡英和学院大学ボランティア委員会

＝ 入場無料 ＝

駐車場がありませんので、公共交通をご利用下さるようお願い致します。



●講師● 国境なき医師団 日本
副会長 臼井 律郎 氏
うすい りつろう

東北大学医学部卒

東北大学医局、仙台赤十字病院勤務

1996年 スリランカ・バブニア派遣

1998年 スリランカ・パティカロア派遣

同年 国境なき医師団・評議員・理事となる

2001年 アフリカ・ブルンジ派遣